

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

今 井 智 子

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 紀 子

倉 内 紀 子

倉 知 雅 子

佐 藤 睦 子

城 間 将 江 子

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

長谷川 賢 一

春 原 則 子

深 浦 順 一

藤 原 百 合 子

水 田 秀 子

矢 守 麻 奈

この冬は日本各地が豪雪に見舞われましたが、ようやく陽の光に春の兆しを感じる候となりました。今号には、総説として第17回日本言語聴覚学会における講演が2編、原著論文が5編、現場最前線の報告が1編、掲載されています。原著論文は、ASDの認知機能、乳児の聴覚機能、嚥下機能、発声発語機能に関するものであり、いずれも臨床経験に基づきリサーチ・クエッションを設定されたであろう、興味深い論文です。

言語聴覚士の大多数は、臨床と研究が表裏一体のものであり、臨床の質を高めるには研究活動が必要なることを認識していると思われますが、研究の第一歩を踏み出すのは決して容易なことではありません。特に研究の初心者には学会発表をしても、論文作成にまで至らないことが多いように思います。学会発表はその場にいる者に成果を伝えるにとどまりますので、学術的發展に寄与すると同時に、研究成果を臨床や社会に還元するには論文として発表することが必要です。

研究の初心者が論文作成に着手するうえでは、研究経験がある先輩が水先案内役を引き受けることが重要です。すなわちリサーチ・クエッションと仮説の設定、検定方法、結果の記載、考察の論旨展開などについて具体的に指導をしてもらうことにより、初心者は論文作成に挑むことができます。なお現在は論文の共著者の基準が厳しくなっており、このすべての過程に実質的に参加した者のみが共著者に氏名を連ねることができますのでご注意ください。

一方、研究の初心者には、研究や論文作成の基本を理解するために「研究法」に関する成書を一読されることをお勧めします。また国内外の論文を読みこなし、学問や臨床の方向性を把握すると同時に科学的で説得力がある論文の特徴をつかんでいただきたいと思います。よい論文を見分ける目が育つと、自らが作成する論文の成熟度が上がるといえるでしょう。また大学院は研究の仕方について本格的にじっくり学び、信頼できる研究仲間を見つけることができる場所ですので、大学院進学もお勧めします。いずれにしても、先輩に研究の水先案内をしてもらい、次には自らが後輩の水先案内を引き受けるといった研究のサイクルがうまく回るようになることを期待したいと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第14巻 第1号)2017年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2017, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)